

令和6年度病害虫発生予察注意報第2号

令和6年7月10日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

病害虫発生予察注意報第1号（令和6年4月17日付け）を発表したが、依然としてカメムシ類の発生が多く、今後は主要な果樹の収穫時期が近くなり、被害を最小限にするためには重要な防除時期であることから、防除を徹底する必要がある。

病害虫名：果樹カメムシ類

- 1 対象作物 果樹全般
- 2 発生地域 県内全域
- 3 発生量 多い

4 注意報発令の根拠

- (1) カメムシ類の予察灯及び集合フェロモントラップにおける調査では、越冬世代成虫の発生量となる6月下旬までの総誘殺数がチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシともに平年を上回っている（表1、2）。
- (2) 向こう1か月の気象予報（7月4日発表）から、今後、カメムシ類の活動に好適な条件になると予想される。
- (3) カメムシ類の越冬世代成虫の発生量は多いことから、第1世代成虫が発生する7月中下旬以降に、果樹園への飛来量が増加すると予想される。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいいため、園内外をこまめに見回り早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う。特に、多発年に早期被害を受けた地域では注意する。
- (2) 果樹園への飛来量が増加する時期は、例年第1世代成虫が発生する7月中下旬頃であるが、多発年において、7月上旬頃から果樹園への飛来量が増加した事例があるので注意する。
- (3) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。ただし、薬剤が乾きにくい気象条件では薬害が発生しやすいため、夕方散布を実施しない。また、カメムシ類は移動性が高いため、広域的な防除に努める。
- (4) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用が、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。
- (5) 各樹種の防除薬剤は表3を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業等者の安全の確保に努め、防除を行う際は、農作業安全に十分に注意する。

表1 予察灯における果樹カメムシ類の総誘殺数（4月上旬～6月下旬）

調査地点	チャバネアオカメムシ		クサギカメムシ		ツヤアオカメムシ	
	令和6年	平年	令和6年	平年	令和6年	平年
八頭町	<u>2,772</u>	199.4	<u>255</u>	40.1	<u>2,961</u>	22.0
湯梨浜町	<u>4,727</u>	312.7	<u>386</u>	15.7	<u>6,577</u>	273.7
北栄町	<u>2,767</u>	349.9	<u>229</u>	12.6	<u>9,920</u>	269.4

平年：八頭町は令和3年～令和5年の平均値、湯梨浜、北栄町は平成26年～令和5年の平均値。
下線部は平年を上回る誘殺数を示す。

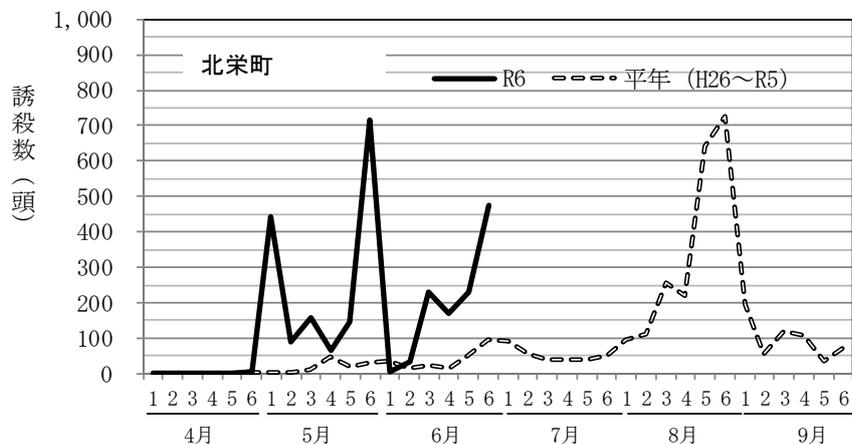


図1 チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺数の推移

表2 集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの総誘殺数（4月上旬～6月下旬）

調査地点	令和6年	平年
河原町	<u>6,668</u>	164.3
北栄町	<u>683</u>	153.7

平年：平成26年～令和5年の平均値。
下線部は平年を上回る誘殺数を示す。



チャバネアオカメムシ成虫



クサギカメムシ成虫



ツヤアオカメムシ成虫

写真1 主要な果樹カメムシ類



ナシ‘王秋’の果実被害



カキ‘富有’の果実被害

写真2 果樹カメムシ類による果実被害（収穫期）

表3 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準*

作物名	農薬の名称	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	IRAC コード**	薬剤の系統
なし	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	4A	ネニコチノイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内		
	シペルメトリン水和剤 (アグロスリン水和剤)	1,000倍～ 2,000倍	収穫前日まで	3回以内	3A	合成ピレストイド系
	シペルメトリン水和剤 (イカズチWDG)	1,500倍	収穫前日まで			
	テルスターフロアブル	3,000倍～ 6,000倍	収穫前日まで	2回以内		
かき	ジノテフラン水溶剤*** (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	4A	ネニコチノイド系
	クロラントラニリプロール ジノテフラン水和剤*** (キックオフ顆粒水和剤)	2,000倍	収穫前日まで		ジノテフラン : 4A クロラントラ ニリプロール : 28	
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	4A	ネニコチノイド系
	アグロスリン水和剤	1,000倍～ 2,000倍	収穫前日まで	3回以内	3A	合成ピレストイド系
	エチプロール水和剤 (キラップフロアブル)	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2B	フェニルピラゾール系
	ぶどう	ジノテフラン水溶剤**** (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	4A
りんご	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	4A	ネニコチノイド系

*農薬の登録内容は令和6年7月9日現在

**IRAC コードは殺虫剤の作用機構の分類を示す。

***ジノテフランを含む農薬の総使用回数は、4回以内（塗布は1回以内、散布は3回以内）

****ジノテフランを含む農薬の総使用回数は、3回以内（塗布は1回以内）

(お問い合わせ) 鳥取県病害虫防除所 (鳥取県園芸試験場内、TEL: 0858-37-4211)



この情報は、鳥取県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<https://www.jpnpn.ne.jp/tottori/> です

ホームページ2次元コード